

# 研修レポート（11月）

Noviembre, 2016

平野夏美

## サルサダンスの発表会

研修レポートの関係で書けなかった10月の出来事ですが、CEPEで習ったサルサダンスの発表会がありました。メキシコ人はフィエスタ(パーティー)が大好きで、イベントがあるごとにフィエスタに参加する機会もたくさんあります。このフィエスタでは基本的にみんな踊ります。日本人には慣れないことだと思うので、フィエスタが苦手だと言う日本人もいますが、この時にサルサが踊れるととても助かります。特に女性は基本のステップと回転さえ覚えていれば、あとは男性がリードしてくれるのでフィエスタをさらに楽しむことができると思います。学校のサルサのクラスは思ったよりも本格的で、約2ヶ月かけてしっかりと動きを身に付けることが可能です。メキシコ人の若者の多くがサルサを踊ることができるので、サルサのクラスを取って良かったと思います。

発表会が行われたのはCEPEの中にある小さな会場で、毎回のことらしいですが会場がいっぱいになるほどの観客が見に来ていました。サルサのほかにメキシコの伝統的な踊りの発表も同時に行われました。本番は緊張しましたが発表会は無事成功に終わり、大変貴重な思い出になりました。



会場は学内にある小さなステージ。サルサダンスの受講者は全員で30名程度。

## Día de muertos

Día de muertos とは直訳すると「死者の日」という意味で、日本で言うとお盆のような行事です。しかし日本のお盆とは違って町中をカラフルに装飾し、各地でお祭りが行われます。また学校内でもオフレンダ(お供物)が飾られて、授業内ではそれぞれのオフレンダに込められた意味について学習する機会もあります。

した。亡くなった人々に敬意を示すために日本のお供え物同様食べ物や花を飾るそうです。オフレンダには日本のお供え物では見られないような様々な種類があり、例えば1番代表的なのが「Pan de muerto」直訳すると死のパンで、最初に聞くと恐ろしい食べ物のように思えるかもしれませんが、オレンジピールが入ったパンに砂糖をまぶしたもので、死者の日が近づくとスーパーなどでもたくさん売られています。丸い形をしたパンの上に、人間の骨の形をイメージしたといわれる細長い形のパンで飾り付けがされています。他には砂糖でできた骸骨を模った飾りも多く見られます。骸骨といえば日本では不気味な印象があるかもしれませんが、メキシコの骸骨の飾りはオレンジやピンク色などのカラフルで明るい色で飾りがついています。これはカラベラといい、これも死者の日が近づくと多くの店で見つけることができ、またメキシコのお土産としてもよく選ばれています。



またメキシコシティの中心地、ソカロでは死者の日の行進パレードが行われ、町中で仮装した人や顔にペイントした人が集まって大変な賑わいを見せていました。カラフルなお供物や、町中を上げてその日を盛大に祝うというメキシコの文化を目の当たりにし、日本との違いを感じましたが、亡くなった人に敬意を示し、亡くなった家族などを思い出すという点では日本のお盆と同じだと感じました。



ソカロの行進パレードの一部